



2017年5月期 業績説明

2017年5月期 連結決算概要

科目	金額	前期比 前期差	予算比 予算差
グループ売上*	26,749億円	104.5% +1,140億円	101.0% +274億円
営業収益	14,680億円	105.3% +733億円	101.8% +261億円
営業利益	841億円	103.3% +26億円	99.1% ▲7億円
経常利益	836億円	101.5% +12億円	99.7% ▲2億円
親会社株主に帰属 する四半期純利益	336億円	77.9% ▲95億円	75.3% ▲110億円

* グループ売上: セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.における加盟店売上を含めた数値

2017年5月期 セグメント別営業収益

セグメント	金額	前期比	前期差
連結営業収益	14,680億円	105.3%	+733億円
国内コンビニエンスストア	2,280億円	104.2%	+91億円
海外コンビニエンスストア	4,599億円	125.4%	+930億円
スーパーストア	4,760億円	96.4%	▲179億円
百貨店	1,626億円	93.1%	▲120億円
金融関連	505億円	103.9%	+18億円
専門店	1,037億円	98.6%	▲14億円
その他	56億円	87.5%	▲8.0億円
消去および全社	▲186億円	-	+14億円

2017年5月期 セグメント別営業利益

セグメント	金額	前期比	前期差
連結営業利益	841億円	103.3%	+26億円
国内コンビニエンスストア	594億円	102.3%	+13億円
海外コンビニエンスストア	70億円	68.5%	▲32億円
スーパーストア	52億円	98.4%	▲0.8億円
百貨店	4億円	-	+11億円
金融関連	125億円	97.9%	▲2.6億円
専門店	11億円	-	+33億円
その他	9億円	105.0%	+0.4億円
消去および全社	▲27億円	-	+2.7億円

2017年5月期 主要事業会社の営業利益

事業会社	金額	前期比	前期差
セブン-イレブン・ジャパン	595億円	102.1%	+12億円
7-Eleven, Inc. (ドルベース)	100億円 (88,592千ドル)	82.3% (83.6%)	▲21億円 (▲17,362千ドル)
イトーヨーカ堂	6.9億円	170.5%	+2.8億円
ヨークベニマル (ライフフーズ*込み)	44億円	91.6%	▲4.0億円
そごう・西武	3.8億円	-	+3.6億円

* ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社
ライフフーズ込みの営業利益は管理上の数値

特別損失の概要

科目	金額	前期差	主な内訳
特別損失合計	276億円	+195億円	中計に基づく事業構造改革の推進
事業構造改革費用*	184億円	+168億円	SSの店舗(神戸・高槻)に係る減損損失の計上等
その他	36億円	+28億円	NHDにおける事業譲渡損失等

いずれも通期計画に織り込んでおります

*事業構造改革費用の内訳は決算短信12ページに記載



補 足 資 料

国内コンビニエンスストア事業：実績

セブン-イレブン・ジャパン



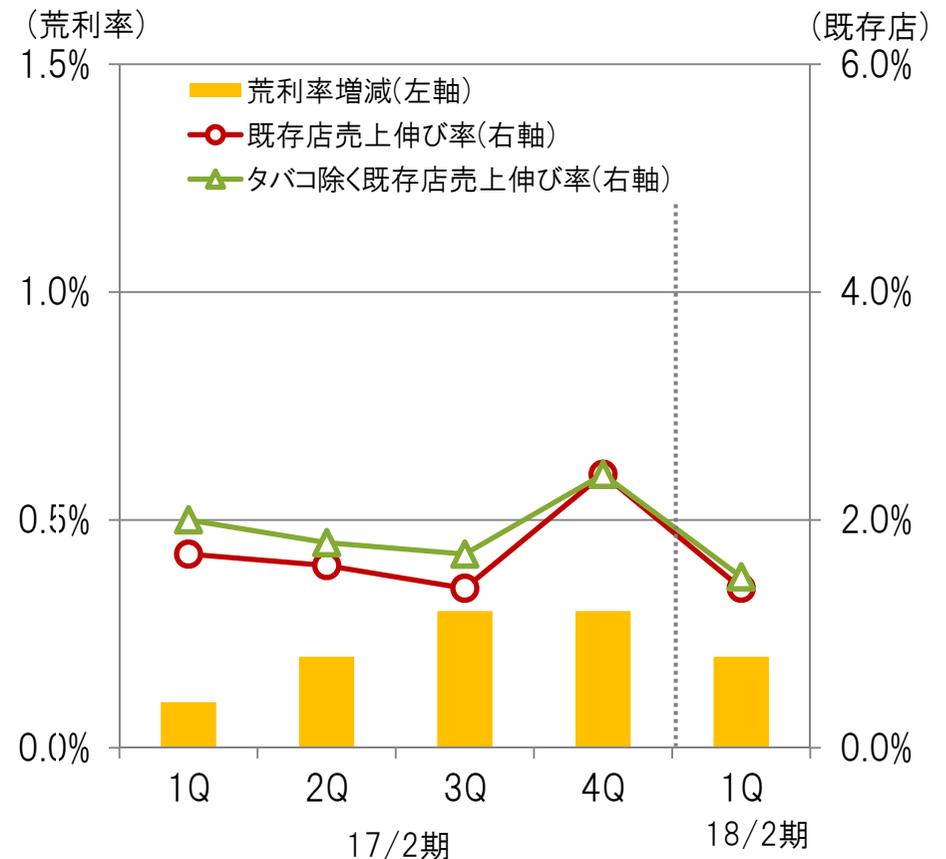
主に既存店売上と荒利率の改善により、6期連続で過去最高益を達成

	実績	前期比
営業利益	595億円	102.1% +12億円
既存店売上伸び率	+1.4%	
商品荒利率	32.1%	+0.2%

概況

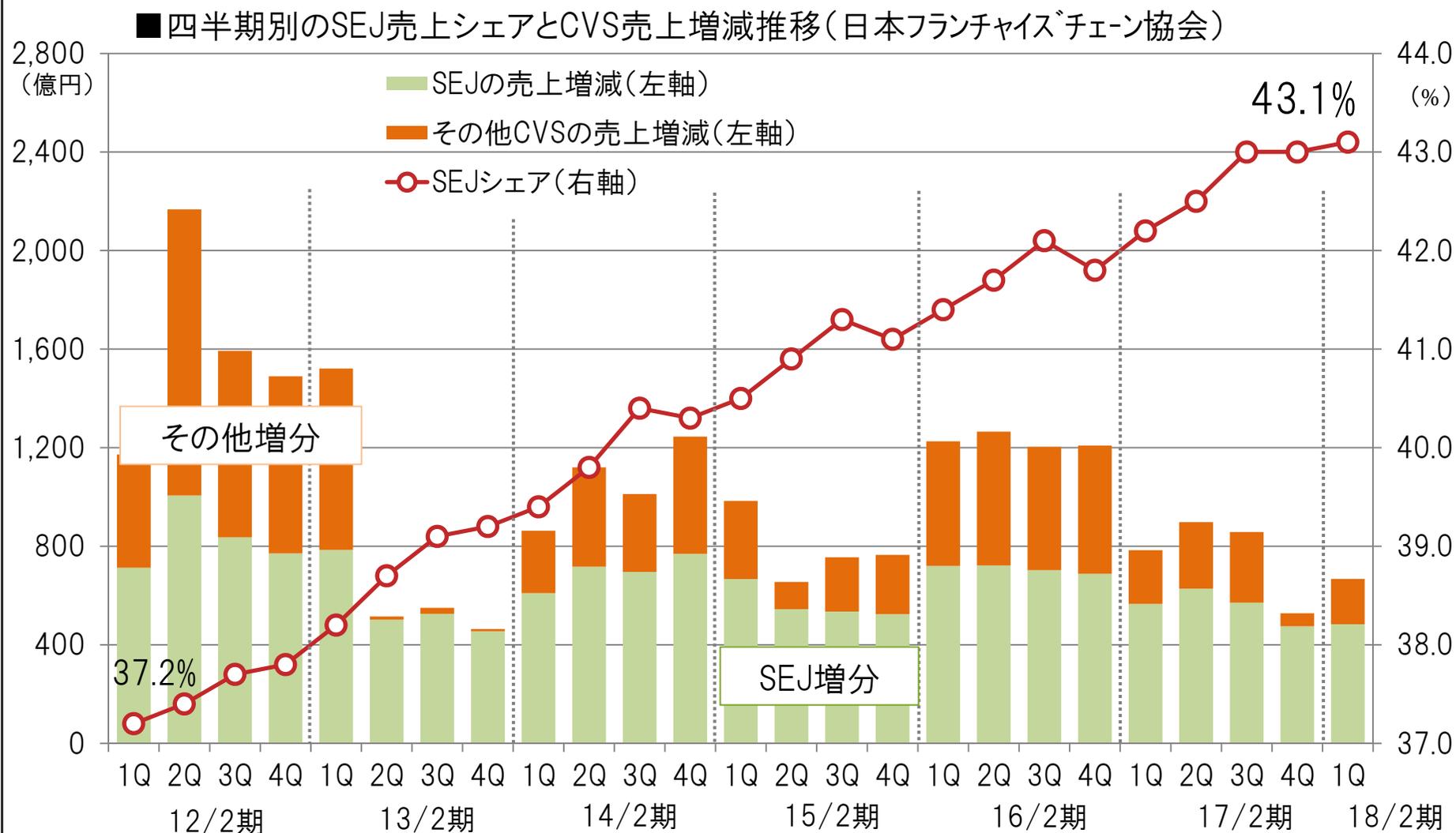
- ・既存店売上：品質を向上したデイリー商品やカウンター商品の伸長が牽引
- ・荒利率：フライヤー商品やセブンカフェ等の高荒利率の販売伸長等で改善
- ・営業利益：既存店売上の伸長と荒利率改善に加え、販管費の伸びを圧縮し、過去最高益を達成

■ 四半期別の推移



SEJ: 四半期別売上シェアと売上増減の推移

● 既存店売上の伸長により、売上シェアは過去最高の43.1%に拡大



(出典)JFAコンビニエンスストア統計調査月報

国外コンビニエンスストア事業：実績

7-Eleven, Inc.



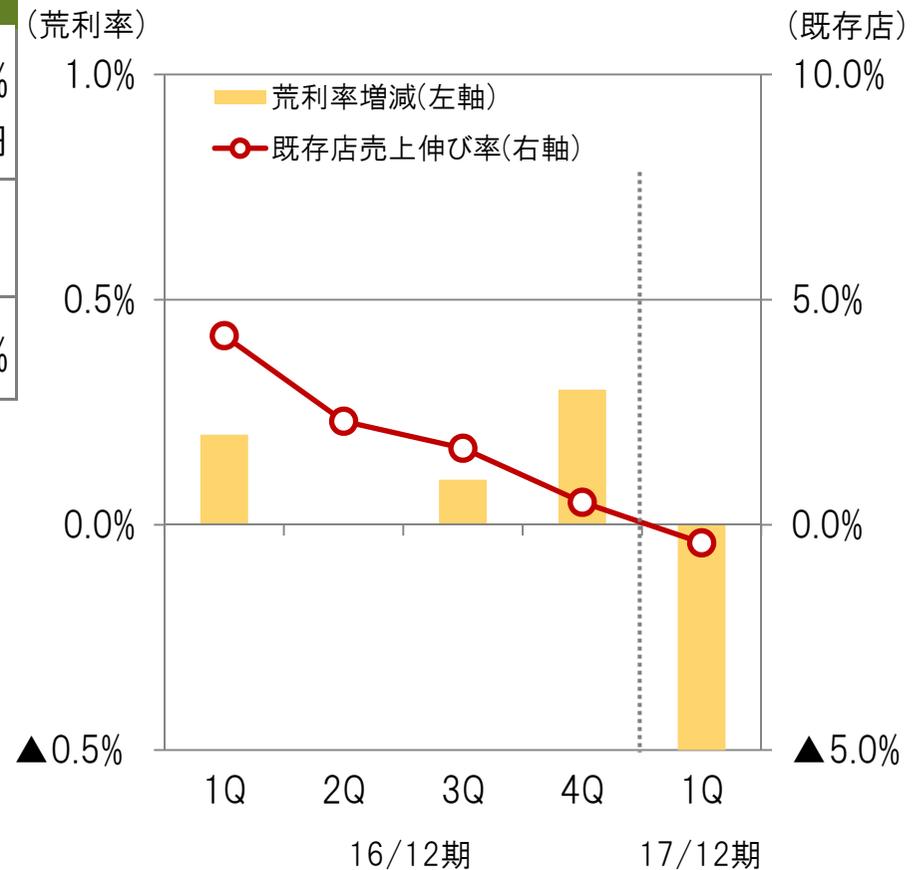
ガソリン売上が好調も、既存店商品売上減少と荒利率悪化に加え、販管費増により減益

	実績	前期比
営業利益	100億円	82.3% ▲21億円
米国内既存店商品売上 伸び率(ドルベース)	▲0.4%	
商品荒利率	34.3%	▲0.5%

概況

- ・既存店売上：主に天候影響等により飲料を中心に弱含んだ
- ・荒利率：低荒利率のタバコ売上が伸長したことや飲料等の販売が減少したことにより悪化
- ・営業利益：既存店売上の減少や荒利率の悪化に加え、販管費の増加により減益（為替円高影響：▲1億円）

■ 四半期別の推移



スーパーストア事業：実績①

イトーヨーカ堂



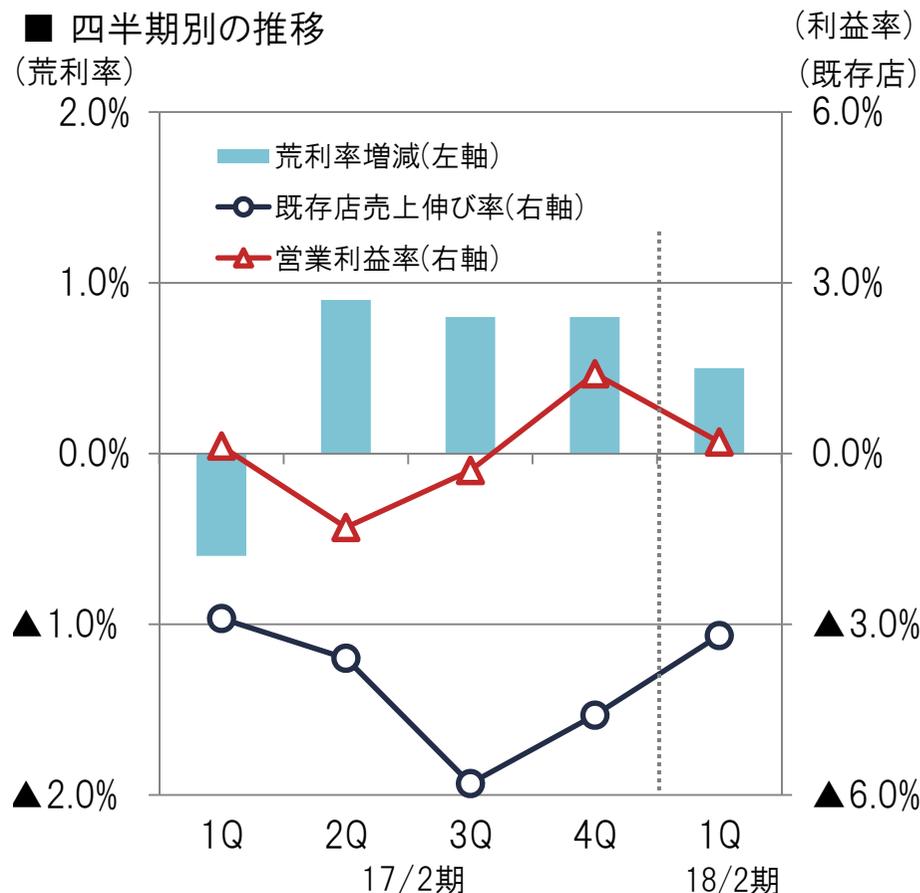
既存店売上マイナスも、販管費の削減や荒利率の改善により増益

	実績	前期比
営業利益	6.9億円	170.5% +2.8億円
既存店売上伸び率	▲3.2%(▲2.1%*)	
商品荒利率	29.7%	+0.5%

概況

- ・既存店売上 : チラシの本数削減や衣料・住居の割引幅を縮小したことなどによりマイナス
- ・荒利率 : 販促の見直しや食品における値下げロスの削減によりプラス
- ・営業利益 : 販管費の削減(▲17億円)や荒利率の改善等により、既存店売上マイナスを補い、増益

*SC合計の既存店売上伸び率



IY: 店舗構造改革の進捗

今期19店の店舗構造改革を計画、1Qで5店の改装実施

	店舗		内容	売場面積比率(%)			
				改装前*		改装後*	
				自営	テナント	自営	テナント
既存アリオの改装	アリオ西新井	3月グランドOP	食品売場活性化 新規テナント導入	27	73	26	74
	アリオ橋本	3月グランドOP	食品売場活性化 新規テナント導入	24	76	20	80
	アリオ鳳	4月グランドOP	新規テナント導入	20	80	16	84
テナントミックス	横浜別所	第1期改装	新規テナント導入	72	28	66	34
	曳舟	第1期改装	新規テナント導入	70	30	65	35

※改装前:第一期改装前の売場面積比率、改装後:グランドOP時の売場面積比率

スーパーストア事業： 実績②

ヨークベニマル



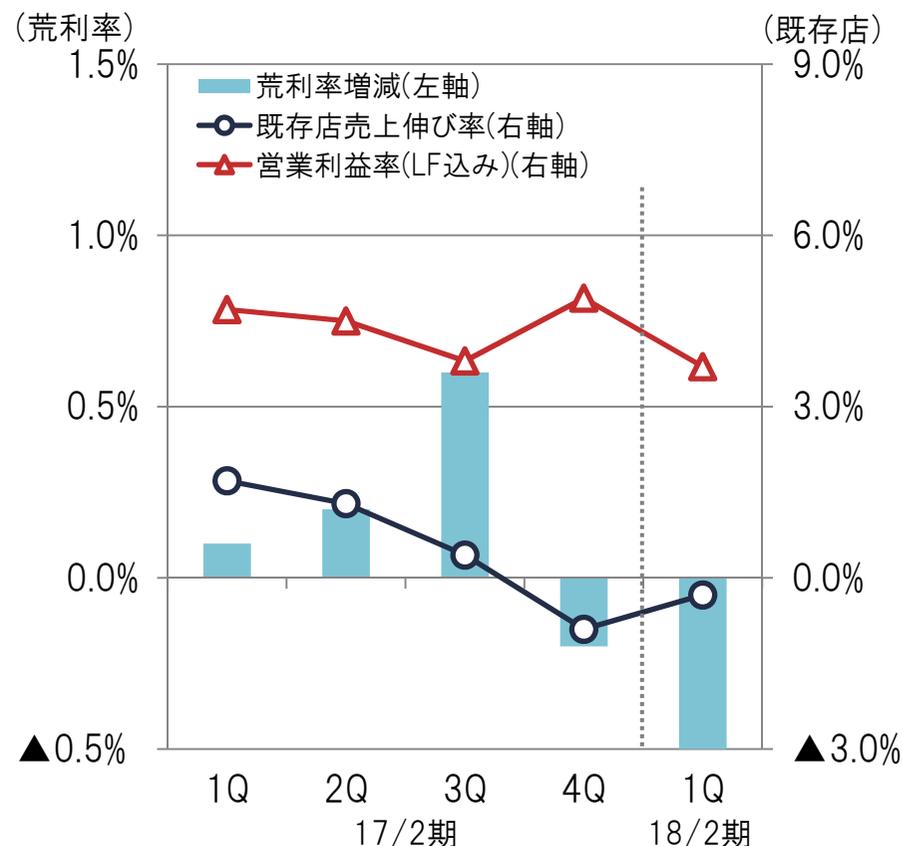
既存店売上と荒利率がともにマイナス、店舗数増等に伴う経費増により減益

	実績	前期比
営業利益	32億円	90.3% ▲3.5億円
既存店売上伸び率	▲0.3%	
商品荒利率	25.1%	▲0.5%
営業利益 (ライフフーズ込み)*	44億円	91.6% ▲4.0億円

概況

- ・既存店売上 : 食品がプラスも衣料・住居のマイナスを補えずマイナス
- ・荒利率 : 販促を強化したことなどによりマイナス
- ・営業利益 : 既存店売上と荒利率のマイナスにより減益

■ 四半期別の推移



*ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマル(YB)の店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社

(注) YB+LFの営業利益は管理上の数値です。

百貨店事業：実績

そごう・西武



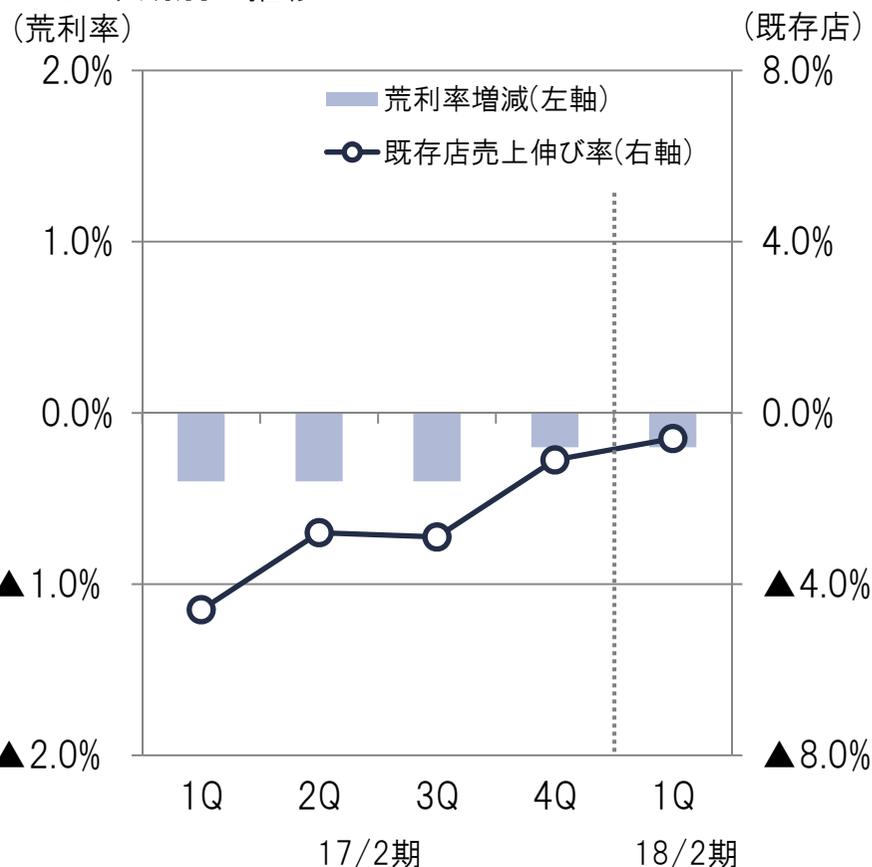
構造改革による販管費の適正化を推進し増益

	実績	前期比
営業利益	3.8億円	- +3.6億円
既存店売上伸び率	▲0.6%	
商品荒利率	24.5%	▲0.2%

概況

- ・既存店売上：宣伝装飾費の適正化を推進するもほぼ計画通りで推移
衣料は苦戦継続も、雑貨・食品は伸長
- ・荒利率：荒利率が高い衣料品の売上減少等によりマイナス
- ・営業利益：衣料品を中心とした売上の減少と荒利率の悪化も、構造改革に伴う販管費適正化により増益

■ 四半期別の推移



当社が開示する情報の中には、将来の見通しに関する事項が含まれる場合があります。この事項については、開示時点において当社が入手している情報による経営陣の判断に基づくほか、将来の予測を行うために一定の前提を用いており、様々なリスクや不確定性・不確実性を含んでおります。

したがって、現実の業績の数値、結果等は、今後の事業運営や経済情勢の変化等の様々な要因により、開示情報に含まれる将来の見通しとは異なる可能性があります。